

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	波田地区や近隣のボランティアの方々との関係性を重視し運営を行なっている。	法人の七つの経営理念とともに地域密着型サービスとしてのホームの理念があり、小規模な施設として地域との関わりをもちながら歩むことを大切にしている。利用者や家族には利用契約時に重要事項説明書等でホームの姿勢を説明している。理念や行動指針などが載った社員手帳が配られており、その中から毎朝抜粋し全員で読み合わせ意識づけをしている。理念等にそぐわない言動が見られた時には職員会議などで話し合い意思統一も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園の行事に参加させていただいたり、近隣のボランティアの方々コンサート等も月に一回程度開催している。	町会に協力費を納め地域の広報が回ったり配布され行事等の情報を集めている。ホームの開設に当たっての住民説明会の開催等で区の役員に協力をいただき、その後もボランティアの紹介などをいただいている。開設時、認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターの協力で開催し地域住民や家族に参加をいただいた。また、ホーム駐車場で夏祭りをを行い、地域のボランティアの協力もいただいた。音楽や踊りのボランティアも通常来訪しており、ホームの畑で栽培したサツマイモを通じて保育園児との交流も始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時に認知症サポーター養成講座を開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次回は協力医療機関の医師にも参加を呼びかけている。メンバーに波田社協のデイホーム事業への参加を検討していただいている。	偶数月の中旬に定例化し実施している。家族代表、区長、組長、民生委員、社協職員、地域包括支援センター職員などが参加している。ホームから利用者状況や運営などの報告をし、参加者から意見や助言を頂いている。会議で上がった安否確認のための地区住民台帳作成への協力や社協事業の情報などをホームの運営に参考にしたり活用について検討をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外の場では特に取り組んでいることはない。	制度の変更やノロウィルス、インフルエンザなどの情報が市担当部署や保健所からFAX等で流れている。介護認定の更新時には市調査員がホームに来訪しホームからも情報提供している。家族が立ち会うこともあり、区分変更申請についても依頼を受け家人と相談しながら進めることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけない工夫をし、外出する方と一緒に出かけるなどの対応をとっている。	管理者と職員は玄関の施錠を含め利用者の行動を抑制をしないケアについて十分理解し実践している。開設時に身体拘束をしないケアについての研修もホーム内で行なっており、今後も年間の研修計画に取り入れていく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じて高齢者虐待防止法に関する理解浸透を図った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特にご家族に関心の高い、重度化した場合・看取りについての方針等は詳しく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からいただいた意見・要望はミーティング等で話し合い、反映させている。	利用者の平均介護度は2.2でゆっくりの方もいるが殆どの利用者が意見や思いを言うことができ、不満を訴えることもあるので職員が十分説明している。家族の来訪も週1回の方、月に1回、2ヶ月に1回など様々であるが来訪時に要望、苦情等を職員に伝えることもあり管理者から丁寧に説明がされている。夏まつりの運営に家族から協力をいただいたり、家族向けのホーム便りを作成し、コミュニケーションをとるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼等で出された意見は、議題として意見交換し反映させるよう努力している。	月1回ミーティングを開催し職員同士の意思疎通を図っている。ミーティングの後ユニット会議を行ない、時には利用者のケアカンファレンスも含まれることもあるが、通常、カンファレンスは別途行なわれている。職員の日々の気づきやアイデアが主任によって各ユニットのノートに記され、それを基に会議等で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回に人事考課を行い、目標を立て業務を行なえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に多くの職員が参加できるよう勤め、勤務時間の一環として受講を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム連絡会や、長野県内にグループホーム連絡会に参加しケアの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人やご家族に数回に分けて会い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご本人やご家族に数回に分けて会い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談をいただいた際に、必ずしもグループホームへの入居が適当でないとと思われる場合には率直に他のサービス機関への紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、例えば台所仕事などの場面では積極的に入居者様と協働で食事作りを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にイベントに参加できるよう支援し、支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪の機会があれば良いが、働きかけが全く十分ではない。	自宅近所の方や友人などがホームへ来訪し、旧交を温める利用者もいる。定期受診の際に自宅に前泊し家族とともに過ごしたり馴染みの美容院に出向く方もおり、正月に1週間ほど連泊した方もいる。今年は大半の利用者が親しい方に年賀状を出したという。職員の力を借りて、ホームから電話をし連絡をとる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係性に配慮しているが、トラブルになるケースも多く、注意して見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に取り組んでいる事柄はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困りごととして職員に相談があった際は、管理者等がご本人の思いを聞き取るようにしている。	入浴時間の変更など自分の希望や思い、不平や不満を表せる利用者は多く、職員もその内容を精査し沿えるようにしている。利用者の性格によっては思いを出せない方もいるので生活歴や嗜好等を参考に推測して声がけし把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴やなじみの事柄の把握ができるように専用の用紙に記入いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼時に全員で日々の状況について確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状、チームで作り上げているとは言いがたく、今後の課題にしている。	職員は1~2名の利用者を担当している。今後は職員も各ユニットに固定化しよりきめ細かいケアにしていきたいという意向がある。今のところ自立されている方が多く、見直しは介護認定の期間に合わせている。	介護の仕事が初めてという職員もおり、徐々に体制も整備されているのでその状況に合わせて、モニタリングの機会を適宜設け、一人ひとりの利用者の介護計画の進捗状況を確認されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を生かきれておらず、実践に繋がっていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や宿泊されたり、夕食を共に召し上がっていただけるよう要望に応じ配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアコーディネーターの方や民生委員や区長など、協力的に関わっていただいております。地域の保育園とも交流をしながら双方に働きかけをおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医に基本通院や受診を行なっているが、ホームの協力医へ変更される方が多い。	緊急の場合は近くの病院に搬送されるが、地域医療に造詣が深い協力医の往診もあることからかかりつけ医を変更される利用者もいる。協力医療機関の看護師にも健康管理面で相談しやすくなっている。今後、ホームにも短時間ではあるが看護師が配置されることになっており、利用者や家族にとって更に安全で安心できる生活が予定されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の横山医院の看護師へは気軽に相談できるよう、先方より配慮いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の松本市立病院のケースワーカーと連絡を密に取って支援できるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針について定め説明を行なっている。	重要事項説明書の条項の中に「重度化した場合における対応に係わるホームの指針」が掲げられており、利用開始時に家族には説明がされている。重度化や終末期に到るまでの利用者との日々の積み重ねが直面した時に職員のコミアがる思いとなり自然に看取りへとつながると考え日常的な関わりを大切にしている。協力医や看護師の重度化や看取りについての話を聞く機会を設けたいとの意向もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受け、半期に一度、補足で訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や運営推進会議の中で、地域との協力体制の構築に向けて協力を呼びかけている。	今年度は3回防災訓練を予定しており、そのうち12月実施分では実際、夕食後の夜間に訓練し、通報・連絡、消火、避難・誘導の総合訓練を行っている。事前に消防署あてに計画を提出し、署員も参加している。次回は地域の方や運営推進会議のメンバーに訓練を見ていただいたり、参加していただくようにしたいという。食料品のバック類の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報収集や外部との連絡には責任をもって情報管理を行なっている。	法人の介護方針の中にも「認知症の正しい理解に基づき、ひとりの『人』としての尊厳を大切に……」という一語があり、人権やプライバシーの確保についてのマナー研修も法人本部で行なわれ実践につなげている。利用者に対する言葉遣い等についても社員手帳に記載があり、職員は自分の言動に注意し何かあれば確認をしホームとしての統一感を持つようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努力しているが時に業務を優先している場面があることを否定できない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出などは計画していなくても、希望で外出したりもしているが、職員の都合で決めている場面も少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院から訪問美容を受けているが、これまでのなじみの美容院等へ出かけることも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けなどの場面では、入居者様の手伝いは欠かせない。	介助が必要な利用者が若干名いるがその他の方は自立している。キザミの方や食事量に制限のある方も数名いる。職員は配達される食材やホームの畑で獲れる野菜を使い季節に合わせ調理している。テーブル拭きや盛り付け、食器洗いなど男性の利用者も含めお手伝いできる方が多く、時には役割のうばいあいになることもあるという。誕生日のお茶の時間にケーキでお祝いしたり、利用者の希望に合わせてラーメンなどを食べに出掛けることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を用いて調理しバランスのよい食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの力に合わせ、口腔ケアのお手伝いをしている。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にしなが、ご本人に合わせたパンツ等し日々試行錯誤している。	利用者の生活リズムや状態に合わせてトイレでの排泄に取り組んでいる。ホーム利用後、オムツ使用からリハビリパンツ、更に布パンツに改善された利用者もあり、現在三分の一ほどの方が布パンツを使用している。トイレ誘導と介助が必要な方も2階ユニットは半数ほどで1階ユニットは若干名となっている。トイレから少し離れているため夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中に乳製品を取り便秘の改善を図っている。多くの入居者様が下剤を使用しないできていることが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には無理強いせず、時間と曜日をずらして対応し安心して入浴できるよう努めている。	2階は浴槽を移動することが可能な介護用ユニットバスで1階は固定した浴槽となっている。殆どの利用者が見守りを必要としており、浴槽への出入り、洗髪や背中の一部洗身で介助を必要とする方もいる。入浴を拒む方もいるが日を変えたり、担当者を替え、少なくとも週2～3回は入浴している。季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯も利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤を使用せずに眠れるよう、習慣や時間を自由にし眠っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更あれば全職員が分かるように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ある部分の入居者様へは取り組みができてはいるが、そうでない入居者様もすくなくからずおいでになり課題にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の方だけが外出できていることのないように外出の機会を設け、散歩先で地域の方々からお声をかけていただくことも多くなった。	天気の良い日にはりんご畑のあるホーム周辺のコースを15分くらいかけて散歩している。また、近くのスーパーやホームセンターへ少人数で買い物に出掛けることもある。神社への初詣、花見、バラ園の見学、近くの保育園との交流など、車椅子を使用する方も含め出掛けている。図書館に本を借りにでかける利用者もいる。	特に冬場、外出が少なくなることがあるので身体状況にも十分配慮されながら少人数あるいは個別の外出の機会を設けていただくことを期待したい。

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額でも所持金を持てるようご家族様と相談し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を使用し、手紙の代筆も行なうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを、行事毎に行なっているが、工夫は十分とは言えない。	木造2階建てのホームで1階、2階のユニットから成っているが共用の空間は両ユニットとも同じ配置になっている。食堂兼リビングと畳敷きの居間が中央部分に配置されているが、その場所からは各居室が直接見えないように配慮されている。床もフローリングで床暖房で快適に過ごすことができている。廊下の端には畳敷きのベンチがあり、各ユニット入口脇にも談話コーナーが設けられ利用者が居室以外でもくつろげる場所が確保されている。共用部分の壁面には各所に油絵が掲げられており大人の雰囲気を感じさせてくれる。県歌「信濃の国」の歌詞が6番まで大書され2階食堂に掲示されており、折にふれ利用者の方々が口ずさんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各廊下の隅に談話コーナーを設け、和室で一人でくつろぐこともできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を飾るなど、ご家族様と共に工夫して空間を作っている。	居室入り口の高さは防災のため低めに設定され三日月状のすりガラスがドアに施されている。居室内にはローカー、ベッド、洗面台、エアコンが備えつけられている。室内にテレビや衣装ケース、衣装ラックなどを持ち込んでいる方や家族の写真をさりげなく置いている利用者もいる。カラフルな新聞記事を切り抜き自室の壁に貼っている方もおり、家族の協力を得ながら一人ひとりに合わせた住環境を整えている。各居室にはベランダがあり洗濯物が干せるようになっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態が変わったり、新たな混乱等が生じた場合は工夫することで混乱材料を取りのぞいている。		